

パナソニック・イズム

# ism

モノづくりスピリッツ  
発見マガジン

アーカイブ  
Archives

SHARE

▶ コンテンツ一覧 ▶ このサイトについて

ism トップ > 主夫は見た！コツコツ洗って43年 ～食器洗い乾燥機～

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

## 主夫は見た！コツコツ洗って43年 ～食器洗い乾燥機～

### 第1話

主夫は食洗機の夢を見るか？ ▶

### 第2話

日本で生まれた卓上型 ▶

### 第3話

営業なのに設計も？分岐水栓・誕生物語 ▶

### 第4話

日本のキッチンに「これなら置ける！」 ▶

### 第5話

「ナショナルの食器洗い節水力。」の秘密にせまる ▶

### おわりに

これからも道はつづく・・・ ▶

1960年に第1号機を発売以来、松下の食器洗い乾燥機は日本の食生活や台所事情に合わせ、着実に進化してきた。主夫として一家の台所を預かる脚本家が、その地道な進化の道をたどる。



スタッフ一覧へ / 第1話 「主夫は食洗機の夢を見るか？」へ

このコンテンツ、あなたの評価は？  おもしろい  ふつう  おもしろくない

ismトップ

コンテンツ一覧 | このサイトについて

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

# 主夫は見た！ コツコツ洗って43年～食器洗い乾燥機～

TOP 第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 おわりに

## 第1話 主夫は食洗機の夢を見るか？

### 主夫・・・旅立ち

みなさん、はじめまして。わたくし、下園ネオと申します。驚くかなれ御本家です（なぜかよく驚かれます）。でも私、普通の御本家とはちょっと違うんですよ。さて、どう違うのか？

私には2歳10ヶ月の息子がおります。私は自宅で仕事をし、私の奥様は毎日、外でしくまっています。おわかりですね。そう、実は私、主夫なんです！主婦ではなくて主夫。掃除・洗濯、息子の保育園送迎などなど、あらゆる家事・育児をこなします。もちろん料理もやりませ。ええ、私にできないのは授乳だけなんです（はっはっは）。

・・・というような「よしなしこと」を、自分のホームページで日記風に綴るのが私の趣味。毎日楽しみにしてくれている読者もいたりして・・・さあ、今日もせっせと書き込みするぞ！！とパソコンを立ち上げると・・・あれ？メールが来てる。

なにに・・・「初めまして！！松下電器の工場です！！」・・・？？？

「実は、主夫である下園さんに、ウチの食器洗い乾燥機について取材していただきたいんです！！」

ほほう～、松下電器さんから取材の依頼ですか？これはまた突然・・・で、なんでって、取材するのは・・・しょっ・・・食器洗い乾燥機！？・・・そんな大それたもの、ウチには要りませんよ！！・・・え？プレゼント当選じゃないの？開発の歴史をルポしてほしいって！？

うーん、食器洗いねえ・・・確かに毎日、「なんとかならんのか、これほ」と思っちゃいますけど。あ、そういえば今夜の分はまだしてなかったっけ。ほ～、なんだかドツと気分が重くなってきた。あ、豊初に言いましたように私が家事担当ですからね、人ごとじゃないんです。毎日、いざ「料理しちゃうぞ！」と腕まくりでキッチンに向かっても、シンクにはどっさり汚れた食器の山。一瞬にして敬意喪失。でもほっとくわけにはいかなないので、ガックリ肩を落としながらもスポンジに洗剤をつけてモミモミやりだす。しかもです。時間かかるんですよ、これが！ 毎日三度三度、まじめにやるものなら合計1時間。1週間で7時間（主夫に日曜日はありません）、1ヶ月で30時間、そして1年で・・・あああっ！

家事を手助けしてくれる家電は数々あれど・・・いや、私だって食器洗い乾燥機、略して「食洗機」という存在は知ってます。しかしです。実際どうなの、食洗機。ホントにきれいになるんでしょうか？ というか、それよりなにより、すごく賢い品じゃないですか？

あ～、なんだかすこく気になってきたっ！工藤さんとやら、待っていておくんない。こうなったら主婦の代表として、食器洗い乾燥機の進化の経緯をしっかりと調べてみせよう！もちろん、一番新しいモデルの実力もこの目で確認させてもらいますぞ！新幹線のチケットを握り締め、いざ、主婦の旅立ちですっ！！（・・・あ、私は主夫だった）

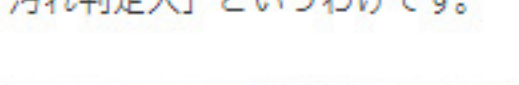
### さあ、食洗機の実力を拝見！

というわけで東京から新幹線に飛び乗り、新大阪で飛び降りて、大阪府豊中市にある松下電器・ホームユティリティ事業部にやってきました。どうしてもこの目で確かめなければいけないこと。「食洗機ってどれくらいきれいになるの？」です。そもそも、手洗いのほうがしっかり洗えるのでは？そのへん、ぼっち確認させてもらわねば・・・失礼は先刻承知です。

「あ、下園さん、ようこそ！工場です～。さあさあ、こちらへ。まずはキッチンラボにご案内しますよ～！」

・・・え、何？キッチンラボ？・・・わかりました。とにかくまずはそこへ突入です。技術者のみなさんが研究・開発されている広いフロアの一角に、見えてきましたキッチンラボ。その名の通り、なぜか普通のキッチンが（しかも靴を脱いでスリッパに履き替える）。実はここ、実際のキッチンを模した実験室なんですな。

待っていたのは亀井信子さん。実はこの方、食洗機の実力をテストする「食器汚し＆洗浄テスト」のご担当。いわば、「食器の汚れ判定人」というわけです。



亀井信子氏  
松下ホームアプライアンス社  
ホームユティリティ事業部  
設計技術グループ 食洗機設計チーム



最新の食器洗い乾燥機と対面！流線型のステンレスボディがかっこいい。いや、でも見た目にだまされてはいかんぞ・・・。



やってきました、「キッチンラボ」。ちよっと緊張しています。



一日の大半をこのラボで過ごされる亀井さん。テキパキと準備を進める姿がカッコイイ。

「じゃ、始めますよ～」

と、亀井さんはおもむるにトレートのカレーをあためたり、目玉焼きを調理したりし始めた。う～ん、いいにおい・・・などと言っている場合ではない。なんだ、なんだ？さらに彼女はすばやい手つきで食器を汚していく。湯飲みにお茶をそそぐ、大皿にカレーを塗る。小皿に目玉焼きを載せる・・・あという間にたくさん食器が食べ物で汚れた状態に。



お湯のみにお茶を注いだら、お次はコップをトマトジュースで汚します。

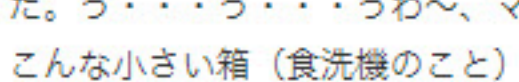


カレーを大皿に塗っていきま。この時ご飯粒を10粒ほど残します。

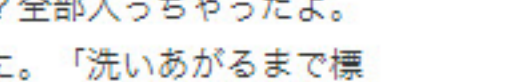


ハムエッグの奥身をつぶして、小皿にまんべんなく塗りつけます。

それにしてもテーブルに並べられたこの食器。ものすごく多くないですか？・・・ええっ！？全部で50点！？まさか、これをいっぺんに洗っちゃおうなんて？！・・・が、驚く私を尻目に亀井さんはニコニコしながらどんどん食洗機に食器を入れた。う。う。う。うわ～、マジで？全部入っちゃったよ。こんな小さい箱（食洗機のこと）なのに、「洗いがあがるまで標準コースで30分くらいね」と亀井さん、食洗機のスタートボタンに人差し指を・・・あ、待って待って～！！一瞬に押させてくださいっ！！



25分ほどで、汚れた食器・50点のできあがり！



亀井さんは食器をセットするの超簡単！



それでは早速、スイッチON！

スイッチON！ついに食洗機が動き出しました。それにしても音が静かだな。大丈夫か、こんなんぞ？

「大丈夫、大丈夫。毎日洗浄テストしている私が保証します！」

え、毎日テストしてるんですか！？50点の食器を、さっきみたいに1点1点汚して？

「この洗浄テストを1日3回してまますから、150点は汚しています。でも新モデルの開発が佳境の時期は、テストは1日4回。一晩置いた汚れを実験するためにもう1回分食器を汚して帰ることもあるから、そうねえ、1日250点汚す日もあるわね」

うひゃー。ず、スゴイ・・・。私が1日に洗う食器の量ははるかに越えています！！しかも、あの汚すときのワザも見送せない。もし食器につける汚れが毎回違っていたら正確なデータが取れません。つまり食器はいつも同じ汚れ方ではいけないわけ。これを「安定した汚染」というらしいのですが、亀井さんはその「安定した汚染」を施すことのできる「食器汚し＆汚れ判定」のスペシャリストであらせられるわけです！！

### ●その他の汚しワザを紹介！



汁類にはわざとワカメを一切れくっつけます。



中皿にはとんかつの油をガンガンつけてます。



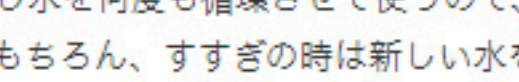
茶碗にご飯のぬぼりをつけて、蒸に3粒ほど残します。

### ・・・ピーピー

「ほら、食器が洗いやがりましたよ！」

「え？もう洗えちゃったんですか！？」

緊張の一瞬！で、食器は・・・うわー！きれい、きれいだよ。亀井さんがあんなに強烈に汚したのによ。ほっきり言っただけで洗うよりきれいかも（つつか、断然きれい）。亀井さんによると、食洗機は高温のお湯で洗うため、洗いよりもはるかに衛生的だとか。しかもたった今まで動かし続けていたんですが、洗浄時には同じ水を何度も循環させて使うので、節水にもなるそうですよ（もちろん、すすぎの時は新しい水を使います）！いや～、完全にノックアウトだ。ここまで来た甲斐がありました！



Let'sオープン！・・・うわっ！コップも何もかもピカピカ！



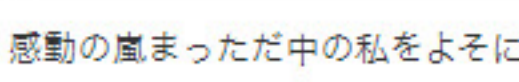
カレーであんなに汚れていたお皿もこのとおり・・・スゴイ。

### なぜ、一連の作業を機械でしないの？

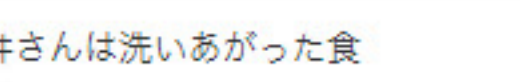
感動の嵐だった中の私をよそに、亀井さんは洗いやがった食器を数し表情で手に取った。キラリ（目が光る音）。実は、亀井さんの仕事はここからが肝心のところ。あたりまえのことながら、洗浄テストは食器を汚して洗うだけじゃダメ。ちゃんと汚れが落ちたかどうか、判定しなければなりません。で、その判定は亀井さんが目視で行っているんだとか。汚すときと同じく、食器を1点1点チェックするの、かなりの時間を要します。でも、その作業を何か別の機械に任せるとはしません。たとえ機械に汚れチェックをさせたとしても、せいぜい「オビ二何力付着シテイマス」というレベルの答えしか返ってこないんだとか。例えばあのお皿に残っているのがご飯粒で、こっちがワカメで・・・なんてことで判断するのは難しいらしい。開発者の皆さんは「食器のどの位置に何が残っていたか」をふまえて設計図を改良していきますから、正確なデータを得るためには、亀井さんのような方が必要になってくるわけです。・・・でも、毎日毎日食器を汚す・・・大変じゃないですか？



亀井さんの顔から笑顔が消えっ！



洗いやがりをチェックシートに記入。



これが洗浄テスト用のチェックシート。開発モデルが発売となった後も、テストは毎日続けられます。



開発が進むうちにファイルはみるみる厚みを増していくのです。

「それほもう、開発が深夜まで続くことも多いですよ。でも、テストで汚れ落ちが思わしくないときもはやったりね。設計チームのメンバーが皆帰った後に、ひとりキッチンラボで吾を噛み締めていることもありますよ」

が、亀井さん、カッコイイ！！なるほどなあ、こうやって毎日チェックする人がいるから、食洗機の性能もどんどん良くなっていくわけか。私は彼女に（もちろん食洗機にも）すっかり惚れ込んでしまいましたよ。

### 食洗機の歴史を探る旅へ・・・

今の食洗機の実力についてはバッチリ見せていただきました。ですが、主夫としてはここで納得するわけにはいかない。なぜ、こんなに汚れが落ちるのか？ここまでの性能を得るまでにどんな歴史があったのか？そのへんをちゃんと押さえていかなくてはなりません。

あ、そうそう、わかったことを一つ。亀井さんがお皿に塗っている食料の中には、日本人の食事で「三大落ちにくいもの」が含まれているんだとか。何だと思えます？そう、お米、「卵の黄身」そして「カレー」。日本で開発される食洗機は、必ずこれらの食料がしっかり洗えるかどうか、試されているそうです。

日本の食洗機は、海外で作られたモデルとは全く違う進化を遂げているからねえ。ほら、食べるものもそうですけど、食器の形もさまざまでしょう？松下はそういう日本ならではの文化を調査しながら、長年開発を続けてきたわけですよ・・・

そ、それは本当ですか、亀井さん！？長年って・・・松下電器はいっごころから食洗機を作っているの？気になる・・・気になるぞ。ということで、主夫はさらに深く、さらに大層に探究の旅を続けることにしました。それではみなさん、どうぞ、ごいっしょに・・・

### 第2話 「日本で生まれた車上型」へつづく・・・

TOP 第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 おわりに

主夫は見た！  
コツコツ洗って43年～食器洗い乾燥機～

TOP 第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 おわりに

## 第2話 日本で生まれた卓上型

## 食洗機誕生・・・そして苦難の時代

最新モデルの美力に圧倒されつつ、キッチンラボを後にした主夫脚本家。さてさて、次にお会いする方は・・・？

「え、家事と子育てをご担当？食器も毎日手洗いされてるんですか？いやあ、そんなあなたこそ食洗機がおすすですよ！」

と、にこやかにご登場くださったのは谷口裕さん。1981年（昭和56年）から2002年（平成14年）まで、ずっと食洗機の開発を担当されてきた技術者なのです。

「ではちょっと食洗機の歴史をおさらいしてみましょうか」

え、いいんですか？いやあ、亀井さんに引き継ぎ、谷口さんも親切な方だなあ。

「食洗機は1860年にアメリカで発明されたそうなんです。ちなみに、アメリカでの普及率は2001年現在で60%を超えています」

そうかあ、そんなに昔からある家電なんだ。で、アメリカではごく普通に食洗機が使われている、と。で、肝心の日本のほうは？すると谷口さんは、古いポスターを見せてくださいました。え・・・なんだか昭和レトロな、懐かしい雰囲気ですけど・・・1960年（昭和35年）？

「そう、日本最初の食洗機は、今から43年前に発売されたんですよ」

43年前！？・・・って、私より年上じゃん！この頃って、テレビなんかまだ「4本足」がついている時代じゃないですか！日本の食洗機も、そんな昔から作られてたんですね！

・・・ん？ちょっと待ってください（と、主夫の目がキラリと光る）。日本の台所に、この食洗機はちょっと大きすぎるのでは・・・？



日本初の食洗機、MR-500とご対面。これは直接床に置く「フロアタイプ」。キャスター付でゴロゴロ・・・と動かせませう。パッと見は洗濯機のような外観ですね。



カゴの真ん中には、「お箸立て」にもなる筒状のケースが見えます。

「そうなんです。当時の技術力ではコンパクト化が難しかったようで・・・ほとんど普及しませんでした。それから8年後の1968年（昭和43年）に初の卓上型（キッチンの作業スペースの上に設置するタイプ）が発売されました。『オバQ』という愛称もあってね。ですが・・・このモデルも卓上型というにはまだまだ大きくて、使用中の音もかなりうるさかったらしく、早々に工場のラインもストップしてしまい・・・」

・・・なんてことだ（涙）。

やっぱりそうか・・・このサイズではなあ・・・。昔の台所って、きっと今よりもっと狭かったんじゃないのかな。でも待ってよ、時代を追うことに土地が広がるわけでもないし。台所の面積って、昔と今とでそんなに変わらないと思うんだが・・・（ウチの台所もかなり狭いです）。日本の台所に食洗機という新しい家電を置くことすれば、できるだけコンパクトなほうがいいと思うんですけど。

「いいこと言いますね、下園さん。『日本の台所に置ける食洗機』を作る、これは我々が43年前からずっと取り組んできたテーマの一つです。『台所が狭いから食洗機なんて置けない』というお客様の声は、昔も今も変わらずあります。日本独特の悩みどころなんですよ」

なるほど、ちょっとわかってきましたよ。日本で食洗機を普及させるためには、まずサイズを小さくしないといけない。これですな。でも今、「テーマの一つ」とおっしゃいましたね？

「ええ、サイズを小さく、という目標はもちろんです。何よりも最初に『良く洗えて、乾かせること』が肝心です。食洗機ですからね、まずはそこです」

そっか、そうでした・・・。さっき亀井さんに最新モデルの美力を見せてもらったせいで、もともと食洗機ってのはあんなにスリキリ洗えるもんだとぼっかり思っちゃってました。あのピカピカの洗上がりも、43年の歴史あってこそなんですねえ。ということは、「洗浄力」と「サイズダウン」が主な開発ポイントになる・・・ということ、その後の歴史を追ってみましょう！

「そうですねえ、今にいたるまでほとんどが『苦難の時代』でした。同じ頃に生まれたテレビや冷蔵庫、洗濯機がどんどん家庭に普及していくのに対し、食洗機は一向に普及しなかったんです・・・。でも、ひたすらチャレンジを続けました。'70年代になってからもフロアタイプ、卓上型、それぞれに新機種を立ち上げています。それからビルトインタイプ（システムキッチンに作り付けするタイプ）の開発も始まりました」

なかなか普及しないも関わらず、皆さんあきらめなかったんですね！

「やはり食洗機にそれだけの魅力があるということなのでしょうね。世の奥様方の家事の手間を減らしたい・・・当時のトップも、技術者も、ひたすらその一念でがんばったんだと思います」

で、'80年代に入り・・・谷口さん、いよいよあなたが活躍する時代が到来するわけですねっ！！

## 日本ならではの「卓上型」を作る！

実は入社するまで食洗機が存在すらご存じなかった谷口さん、最初に担当したのはオーストラリア向けフロアタイプ。とにかくサイズが大きくて、試作機を家に持ち帰ると奥さんにもびびくりされたそうです。

「『あなた、この大きいキカイ何なのっ！？』・・・ってね（笑）。でも実際に使ってみると、その便利さに驚いたんですよ。『もしコレを会社に返すなら、お金を出してでも同じものを手に入れるわ！』と、ものすごい気に入りました」

おお！やっぱり実際に使ってもらうのが一番というわけですね！さて、谷口さんには入社3年後に重大な役目が待ち受けていました。日本で真に受け入れられる卓上型モデルの開発です！あの「オバQ」発売から実に15年後のことです。ビルトインタイプやフロアタイプとは全く違う形状、つまり「キッチン流し台の上に置けるサイズ」を目指して、谷口さんの挑戦が始まりました。当時の設計チームは谷口さんを含め3人だったとか。ず、少ないっすね！？

「やっぱりそれまで売れてない商品でしたからね。限られた人数でしりぞけど、必死で取り組みましたよ。既存タイプの設計ノウハウを活かしながら、限られたスペースに置けるサイズについて検討を繰り返しました。その結果、食洗機本体のサイズは45cm角、洗える食器数は4人分・24点を開始しました」

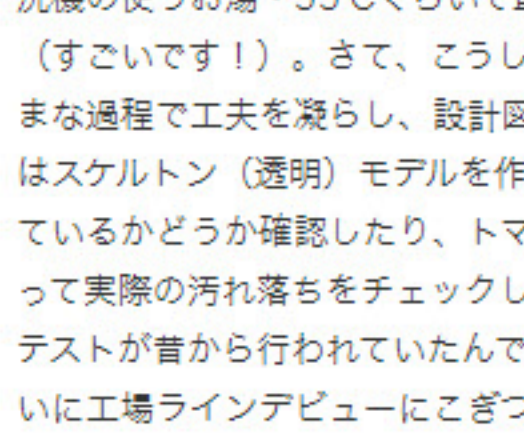
中でも苦労したのは給水時の水量検知方法。そもそも食器を洗うには、まず食洗機内のタンクに水を溜めなければなりません。当然、水が溜まったら給水を止める必要がある（止めないとあふれます・・・）。ところがビルトインタイプで使っていた「圧力スイッチ式」ではうまくいかない。コンパクトな卓上型では使用する水量が少なすぎて圧力がからなかったんです。どうしたものかと悩んだ末、谷口さんたちは「フロント式」を採用することに。これは水洗トイレのタンクと同じ考え方で、ある高さまで水量がたまると給水が止まる仕組み。この方式ならば水位の検知が容易だといことがわかり、早速図面の変更にかかったそうです。そのほかにもカゴの形状と向き（食器と食器のすきま）、ポンプ、ノズルなどを設計していくわけですが、ここで頼りになったのがそれまでの食洗機設計で得た経験と勘だったとか（さすがです！）。

「とはいえ、カゴのピッチ幅を決めるのもかなり手探り状態でした。食器の収納枚数は増やしたい。でも詰め込みすぎると今度は汚れが落ちにくくなる。ノズルの穴の形も深く関わってきますし、とにかく微妙な問題が山積みで・・・。試作品のカゴをペンチで曲げたり針金を巻いたりして調整していました」

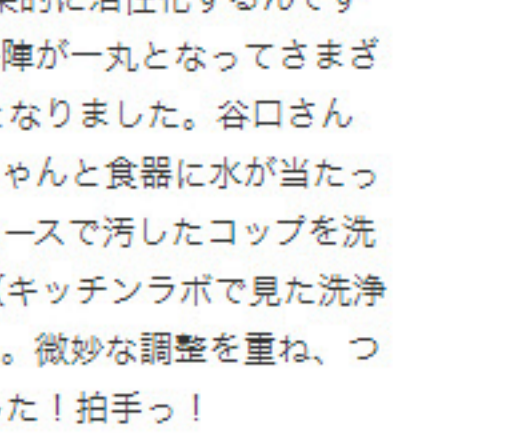
うわ～、技術者の方々のお仕事って、実は結構アナログなんですねえ。それから、忘れてはならないのが「洗剤」。ご存知かとも思われますが、食洗機には食洗機用の洗剤が必要です。通常の台所用洗剤を使うと泡が立ちすぎて、大変なことになってしまいます。谷口さんをはじめとする開発陣は、この洗剤についても一から見直したそうです。

「もともとはアメリカ製の洗剤を使っていました。しかしそれだと日本のお血汚れの主流となる『でんぷん』を落す力が弱かったんです」

亀井さんが教えてくれた日本独自の3大汚れ成分（覚えてますか？）。その一つである「でんぷん」対策については、全く新たに開発をする必要がある。そこで社内での化学専門の技術者が中心となり、まず環境問題を考慮して無毒な洗剤を実現（えらいです！）。そして懸案の「でんぷん」汚れを落とすために、それを分解する酵素・アミラーゼを配合しました。このアミラーゼは、食洗機を使うお湯・55℃くらいで最も効果的に活性化しますので（すごいです！）。さて、こうして開発陣が一丸となってさまざまな過程で工夫を凝らし、設計図完成となりました。谷口さんはスケルトン（透明）モデルを作ったとちゃんと食器に水が当たっているかどうか確認したり、トマトジュースで汚したコップを洗って実際の汚れ落ちをチェックしたり（キッチンラボを見た洗浄テストが昔から行われていたんですね）。微妙な調整を重ね、ついに工場ラインデビューにごぎつきました！拍手っ！



谷口さんが苦戦しながら設計したカゴです！



本格的な卓上タイプとしてデビューを果たしたNP-600。食洗機史上のエポックメイキングとなった。



当時の広告のキャッチコピーは、「食べるのはみんな。洗うのはひとり？」・・・これ、主婦にはおなじみ文句ですよ。

「このNP-600のようなモデルは今までありませんでしたから、市場にも喜んでもらえました。売り上げもかなり伸びましたし、食洗機の可能性がバアッと広がったような感じですね。・・・そうそう、食洗機本体と一緒に、例のモニターしたんですよ」

・・・は！？「例のモノ」？？・・・一体何のことでしょう？

「食洗機を普及させるために必要不可欠だったモノです。それを生み出すべく奔走した者がいますね。営業の人間なんですけど・・・」

ええっ！？「洗浄力」と「サイズダウン」の他に、まだ「必要不可欠なモノ」が存在したというんですかっ！？しかもその誕生に関わったのが営業の方！？・・・谷口さんっ！ぜ、ぜひ、その方を紹介してくださいっ！！

[第3話 「営業なのに設計も？分岐水栓・誕生物語」へつづく・・・](#)

TOP 第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 おわりに



主夫は見た！  
コトコソ洗って43年～食器洗い乾燥機～

TOP 第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 おわりに

## ◆第4話 日本のキッチンに「これなら置ける！」

## ●ダミーモデルを抱えて行脚！

1960年に生まれた日本の食洗機。本体の性能も少しずつアップし、分岐水性も徐々に種類を増やし・・・にも関わらず、なぜか売れない食洗機。なぜに売れない食洗機・・・というところで、その原因を探るべく「食洗機を持っていないお宅」に訪問調査されたのが、この方、南登さんです！さあ、一体どんな調査を・・・って、え！？なんです、この写真？

「下園さん、この食洗機の名前、ご存じありませんか？」

と、彼女が見てくれたのが「かたづきんちゃん」というモデル。そういえば、確かにその名前には聞き覚えがあるような・・・

「NP-600発売から10年後の、1996年（平成8年）に世に出た食洗機なんですけどね。『食器洗い乾燥機』という家電の知名度を上げてくれた、開発の歴史を語る上で欠かせないモデルなんですよ」

へえ、そうだったんですか。'96年といえば、私はまだ花の独身！主夫になる前ですよ！私の私でさえも「かたづきんちゃん」という名前は覚えていたんですからねえ。当時ものすごくヒットしたんでしょう！？

「いえいえ、それがそれほど売れなかったんです（苦笑）。3～4人用のミニサイズということで、洗える食器の数も少なめでした。ただ、それまでの食洗機が9万円代だったのに対し、『かたづきんちゃん』の値段は6万円程まで落とすことができたんです。それで主婦の皆さんには『この値段段ならわが家も買えるかも？』と思っていただけたみたいで・・・お店に足を運んでいただくきっかけを作ったことは確かですね。あと、これは余談ですが、実際に実物をご覧になった方の多くは『あら、やっぱり小さいわね』ということ、一回り大きいモデルをお買い上げくださいました。そういう意味でも、『かたづきんちゃん』の存在は重要でしたね（笑）」

なんだ、実は思いっきり売りに上げて貢献してるじゃないですか！とにかく、時代を（というより「主婦のハート」を？）動かしたモデルであることは確かですよ。しかし・・・この「一回り大きいモデル」ですけど・・・これはまたかなり大きいですね。

「『かたづきんちゃん』は別として、当時の卓上型食洗機の多くは真四角（写真でご紹介しているNP-820のような形ですね）だったんですよ。そのせいもあってか、『ワチのキッチンには置けない』という声は相変わらず後を絶ちませんでした」

なんと・・・『かたづきんちゃん』のブームが去り、またしても苦難の時代到来ですか・・・

「実は当時、他メーカーがシェアを奪っていく厳しい状況だったんです。次のモデルだけは絶対に失敗できない・・・青木の陣でした」

本当に置けないお宅ばかりなのか？では、どんな形状なら置けるのか？・・・というわけで、冒頭でお伝えした「訪問調査」が実施されることになるわけです。南登さんは調査対象となるお宅を都内築10年以内のマンションから選びました。その数15世帯、調査期間は一週間、一日に3件ずつ訪問するという強行スケジュール。都内を選んだ理由は、「キッチン面積に制限のあるご家庭」に絞り込むため。

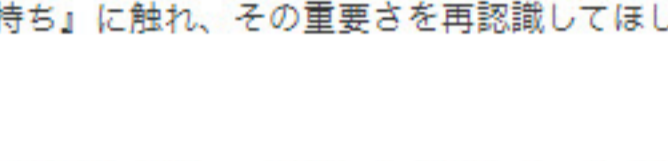
「お客様のオマの音が聞ける絶好のチャンス。企画マンはもちろん、設計者とデザイナーにも同行してもらいました。タイプの違うプランが一室に会することで、通常の調査以上のアイデアが生まれるのではないかと、思っていたんです」

実は同行してもらったのには別の理由もあったとか。

「会社の中で試作品ばかり眺めていて、ついつい『写真』や『納期』が気にかかってしまいます。そんなところで私一人がアイデアを出しても、なかなか受け入れてもらえません（苦笑）。今回の調査では、ものづくりに関わる人間ひとり一人が「ユーザーの気持ち」に触れ、その重要さを再認識してほしいんです」

さすが、南登さんも熱いスピリットの持ち主です！実はこの調査、ある「大きなモノ」ともに行われました。これです！

なんと（写真をご覧ください）。なんとこれ、発売スチロール製のダミーモデル。これを合計4つも抱えての行脚となりました。なぜ4つかという・・・



これがダミーモデル。フタが開け閉めでき、使い勝手がよくわかります。

「一つは、当時の商品と同じサイズの真四角型ダミー。残りの3つが新モデルの候補作です。それぞれドアの位置や形状が全く違うものを用意しました」



(1) 現状モデル (2) 同じくフタは手前側が開く (3) フタが上下に開く新しい形 (4) 前面鏡面スタイルも作られました

なるほど、その中でどれが一番使いやすいか、実際に置いて試してみるわけですね。

## ●微妙なカーブはここで生まれた

ダミーを抱えた南登さん一行を待ち受けていたのは、「やっぱり置けない」という結果ばかり。「なんとか置けるかも？」というお宅は、15件中たったの2件だったそうです。

「もう、参りましたね。どのお宅もシンクの隅はまな板を置くスペースしかないんです。まさかそこに食洗機置き場にすわるわけにもいきません。これでは確かに置けないはずだ・・・と、苦悶を深らしました」

そういえばマンションのシンクって、キッチンの端っこにある場合が多いです。しかし、「置ける、置けない」以外にも様々な意見が飛び交い、それらすべてを新モデル開発に役立つかも知れません。そして「フタを開けると水道のカラヤや吊り戸棚にひっかかる」といった物理的な不具合、そして「夫がさげすむと威圧感を感じる」、「せっかくなのカウンターキッチンなのに子供の様子が見えなくなる」など、感性的なストレスについての声。そして最も参考になったのが「フタのある面はカーブがかかっているほうがいい」というご意見。その場にいたデザイナーも、「なるほどなるほど・・・」と脳みそをフル回転させ始めたそうです。

南登さんが会社でよく「前面パネルはカーブをつけて」と訴えても、「カーブなんて無理や。男はストレート勝負じゃ！」となるのが関の山（実は水漏れの懸念など、技術的にめんどろや難しいせいもあります）。ところが、お客様の自宅で現実を目の当たりにすると、とたんに前向きに検討スタート。さすが南登さん、開発のツボを心得ていらしゃる・・・

## ●「これなら置ける！」

行脚を終えて、大阪に帰ってきた南登さん。調査結果をもとに、新モデルのサイズを打ち出し、技術陣にぶつめました。

「目指すサイズは幅540mm、奥行き300mm、高さ（フタ開け時）600mm。フタは『2枚中折れ上開き』型。フタ閉め時には、ゆるいカーブがかかっていること！」

もしダミー調査を南登さん一人で実施していたら、この目標値は一笑に付されておしまい・・・だったかも（それまでの「真四角型モデル」の奥行きは515mmだったそうですから）。しかし今回はデザイナーも技術陣も南登さんの味方でした。加えて素晴らしいのが当時の事業部長（現・松下ホームアプライアンス社副社長）の塚本さん。南登さんの調査結果を見て、「その形状で行こう！」と決断していただきました。さあ、今までの全く違う卓上型の誕生間近！カーブのかかった前面パネルなど注目のしどころ満載です。南登さん、他にも開発中に苦労したところはありますか？

「取っ手も、とっても苦労したのよ」

うまい！山田君、座布団一枚取って！（って、取るのか！）さすが主婦の代表者でもある南登さん、試作品を隔ち隔ちでチェックして、ダメなところがあると絶対に妥協しなかったんだそう。

「私の役目はあくまでも『お客様の視点』でチェックすること。フタの取っ手はお客様が一番多く触る場所。少しでも違和感があれば、即、作り直してもらっていました。技術の方にはご苦労がかけましたけど・・・」

と言いながら、なぜかうれしそうですよ南登さん。この取っ手のダメ出しが続いたせいで、技術者は徹夜で試作品を作り続け、日に日にやつれていったとか（裏話です）。

そして1999年（平成11年）。よろしいですか皆さん、ほんの4年前のことです！とうとうここで、新形モデルNP-33S1が発売となります。そしてこれが1ついに！歴史的なヒット商品となったのです！坂本さん、皆さんっ！その名も「これなら置ける」。塚本氏が開発中から口癖のように言っていた「これなら置けるやう」というセリフが、そのまま商品の愛称になりました。発売40年。ここまで来てようやく明るい兆しが見えてきたようですよ！

食洗機の認知度を高め、ユーザーの数を一気に増やしたこのモデル。大人気のそのワケは・・・形状はもちろんのこと、「取っ手がとってもよかったから」かも。（うまい！山田君・・・以下略）。ご自身も主婦でいらっしゃる南登さん、世の奥様方のこだわりどころを的確に捉え、見事な結果を導かれたわけですよ！（ここでまた拍手っ！！）

## ●一番身近なユーザーたちの食洗機日記

いやー、それにしてよかったかった。食洗機の時代がようやく到来しましたね。じゃ、私はそろそろおいとまを・・・

「下園さん、まだ帰っちゃダメ！」

ええっ！？わ、私にもダメ出しですかある〜！？南登さん、そりゃないですよ。え？何ですか、この大きなファイルたちは！

「私たち開発チームのメンバーがつけた『食洗機日記』なんです」

なんと、チームの皆さんが実は一番身近なユーザーってことで。よく見ると、「谷口」だの「南登」だの、見知ったお名前もチラホラ・・・。日記というだけあって、毎日の食事のメニュー、使った食器の種類、枚数、それに食洗機に食器を配置した状態を撮影した写真まで丁寧に添えられています。これはものすごく貴重なデータ集ですよえ！

「私たち開発に関わる人間が常に一（いち）ユーザーでありつづけることが大切だと思うんです。食生活って少しずつ変化するものですよ！担当者が自分の食生活をため取って記録していくことは、家電の進化の先を予測するためにも、決して無駄なことではないはずです」

なるほど〜。こういった地道なデータ収集により、時代の求めるモデルが少しずつ実現していく、というわけですね。そうそう、この'99年のヒットのお話を聞いて、私も主夫として気付いたことがあるんです。ここに来てようやく食洗機が広く受け入れられるようになったのは、サイズが小さくなった、ということ以外にも、人々の「家事に対する意識の変化」が大きく関わっているのではないかと。例えばここ数年で定着した考え方がいくつかあるんじゃないですか。「働いてる主婦のほうがいい」とか、「おしゃれなデザインに囲まれて快適に暮らしたい」とか。「家事はできるだけ合理的に済ませたい」、というのもしらありますよね。忙しい時間をやりくりしながら、暮らしを楽しみたい。そんな人たちに、食洗機が与えてくれるものって、結構大きいんじゃないかな？ねえ南登さん？

「確かに、昔に比べると食洗機に対する意識はかなり変わったと思いますよ。かつては一種の罪悪感といましようか・・・自分の手でできることを機械に任せるなんて、と構える方も多かったんです。でも実際に使ってもらって『精神的に楽になった』とおっしゃる方が非常に多い。実はそれくらい皆さん食器洗いを負担に思っておられるんですよ。今の世の中、調理の際には家電が活躍するのなら、食後は食洗機が活躍してほしいはず・・・。そういう考え方も、徐々に受け入れられるんじゃないですか。私は食洗機に、日本の食文化・キッチンに欠かせない存在になってほしいと思っています。洗濯機には洗濯機置き場があらかじめ用意されているように、キッチンには食洗機置き場があらかじめ用意されているように、キッチンに食洗機置き場がなくてもいい。皆さんがそう認識してくださって、食洗機を気軽に・・・そう、スポンジ代わりに使っていたらいいように、これからのより良い商品づくりに協力してほしいです」

バチバチバチ（拍手！）。南登さん、なんだか私の心も踊ったような気がします！実は今日皆さんにお会いするまで、食洗機のことを「大げさ・驚沢」と思っていたんです！しかも「今更・・・今更からでも驚いたくらいです！でも、スポンジ代わりに」ですかあ〜。いい表現ですねえ。脚本家としては見習わなくっちゃ。

「あ、『スポンジ代わりに』というのは、実は別の開発者のセリフなんです。現在のモデルの設計を手がけた開発者の一人なんです」

ええっ！！あーの、なんだか、開発メンバーの数って、だんだん増えてきてませんか？ともかく、そのお方にぜひお会いしてお話できたら・・・！南登さん、そのスポンジをおっしゃった方を紹介してくださいっ！！

## 第5話 「『ナショナルの食器洗い乾燥機。』の秘密にせまる」へつづく・・・

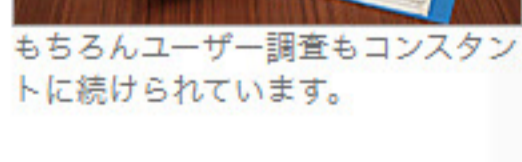
TOP 第1話 第2話 第3話 第4話 第5話 おわりに



社員の方々がご自宅でも書かれた「食洗機日記」。



もちろんユーザー調査もコンスタントに行われています。



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



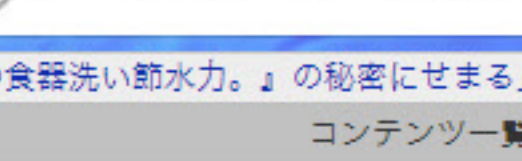
「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



「もっと多くの方に食洗機の便利さを伝えたいですね」



※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

主夫は見た！  
コツコツ洗って43年～食器洗い乾燥機～

TOP

第1話

第2話

第3話

第4話

第5話

おわりに

## 🌊おわりに これからも道はつづく・・・

## 🍷おバアも認めた自慢の商品！

松下電器の食洗機43年の歴史を追ううちに、とうとう西の空が赤くなってまいりました。お会いした皆さんの開発にける熱意も、この夕日と同じくらい熱く、赤く、そして・・・

「下園さん、ホラこれかぶってちょうだい！」

あ、工藤さん。なんですか？この黄色い帽子。

「製造ライン見学用よ。実は毎年この時期は夏休みなんだそうなんです・・・今年は皆さん休日返上で、組立製造してらっしゃるんです！」

ええっ、休日返上ですか！？スゴイっすね！それはつまり、生産が追いつかないほど食洗機が売れていると・・・？

「ええ、あちこちのお店で品切れ状態で。お客様には予約していただいで、お待ちいただいている状態なんですよ」

と、私の目の前に現れたのは、おヒゲもダンディな才藤克巳さん。実はこの方、1970年（昭和45年）から30年以上の長きにわたり、食洗機の組立製造を担当されておられるという、いわば開発の歴史の生き証人とも言える方！！歴代の食洗機の全機種・全組立工程をばっちりマスターしているというスゴイ人なんです。

「私はもうすぐ定年なんですけどね。長年心を尽くして担当してきた食洗機がここまで人気商品になるとは・・・今年はまだ感無量の年ですわ」

このダンディ才藤さん。なんと、「日本一の金持ちは松下幸之助さんや！」という中学校の先生の言葉で松下電器にここがね、中学卒業後、即、入社されたんだそうです。そして食洗機の便利さと将来性に惚れこみ、自ら志願して製造担当になられたのだとか！長い年月の間には別の商品を担当された時期もありましたが、定年を間近にして、再び食洗機の担当に戻してもらったほどの食洗機への惚れ込みよう。

「とにかく初めてこの目で見た時にびっくりしたんですわ。『こんなええもんがあったんかっ！』ってね。その気持ち一つで組立製造に打ち込んできたんです。そうそう、うちのおバアにも使ってもらおうと思って、何度かプレゼントしたこともあるんですよ」

は？おバア？・・・実は才藤さんのお母さん。昔からとにかく機械が大嫌いで「食器洗いを機械に任せるやなんて！」な人だったそう。最初にプレゼントした初の卓上型・オバQ（NP-100）は、「音が大きい」、「うまく洗えない」と全く相手にされませんでした。ところがそれから20年近くたって世に出た卓上型（NP-600。2話目で登場の谷口さんが設計）を使ってもらったところ、「あんな、こりゃ便利だわ」な人になった。

「その時、食洗機は必ずヒットする、このまま開発を続けてもらわなアカン！と強くおもいましたんや。うちのおバアのように、生まれた時に家電がなかった世代が便利やと言うてくれるんやから、若い人たちにもきくと受け入れてもらえる日が来るはずや、と。売れない時期は食洗機以外の商品ラインを手伝うこともあったりして、随分歯がゆい思いをしてきました。でも食洗機の製造スタッフには、「いずれは絶対、ヒットする日が来る。あきらめたらあかん！」って、言い聞かせてましたんや」

ものづくりに対する不屈の精神・・・そんな言葉が胸に浮かびました。でもその精神の礎となったのは、「お母さんに来てもらいたい」という深い愛情なのではないでしょうか？そう、ものづくりに対する熱い想いで、「誰かを喜ばせたい」という人間の基本的な欲望と深く繋がっている気がします・・・！！今日このラインを見させていただいで、どんどん形になっていく商品の数にも圧倒されましたけど、何より工程に携る皆さんのすごいか熱気が伝わってきて、そのことに驚いたんですよ。でも、才藤さんにお会いして、そのフケがわかった気がします。皆さん、「ものづくり」の向こう側に、「喜ばせたい人」がちゃんと見えてらっしゃるんですよ。私、何だかとてもあったかい気持ちでいっぱいです。でも才藤さん・・・こんな風に「夏休み返上」にまでなっちゃうと、忙しすぎてお困りではないですか？

「いやいやいや、困るなんてとんでもない、うれしくてたまりませんわ。昔は生産中止や工場ラインストップなんてしょっちゅうあったから、いつてもくやしき思いをしとったんです。それが今では、商品を待ってくださっているお客さんが大勢いらっしゃるんですから、ほんま光栄なことです。今忙しいのは、今日の日でも食洗機の開発をあきらめずに続けてくれた皆さんへの恩返しやと思ってます」

お、恩返しですか・・・すこいです、才藤さん！！仕事の忙しさをそんな風に表現できる、そのお人柄に大感動ですっ！！（うーん、お手本にしなければ。）

そうか・・・技術、営業、企画、くらし研究所、そして忘れてはならないのが・・・才藤さんをはじめとする組立製造の方々！！完成品を箱に詰めてトラックに積み込む・・・そこまで関わる皆さんひとり一人が、食洗機を愛する熱いスピリットの持ち主なんですわ！！



皆さん熱線の技で次々と数をこなしていきます。



菊川さんの設計したポンプがほら、こんなに！



冠さんの提案した「マルチラック」も着々と組み込まれていきます。



様々な工程を経て、ついに完成。パッキング作業も丁寧に進められます。

## 🍷いつだって今がスタート地点！

食洗機が日本に登場してから今年で43年。テレビや電子レンジがどんどん家庭に普及していく一方で、開発しても開発しても売れない苦難の時代が続きました。しかし松下電器の開発者たちはあきらめると言うことをしなかった。「日本の台所事情」や「ライフスタイルの変化」を見つめ、お客様が求めている食洗機を提案、製品化に挑戦し続けました。なんだか、ちょっと目くじら・・・いえ、目頭が熱くなってしまう。

今日1日、あらゆる方面から食洗機の歴史を追いかけてきたわけですが・・・主夫の目から見ても、この家電はかなりユニークだということがわかりましたよ。まず「日本の食器汚れがバッチリ洗える食洗機」を目指し、次の時代には「日本の台所に置ける食洗機」を探求、そして現在、「しっかり節水できる食洗機」となり・・・。欧米に比べるかに土地の狭い日本ならではのハンデを克服し、「環境にやさしい」といった時代の流れをも反映した、柔軟なスタイルを築き上げている家電の一つじゃないでしょうか？もちろん、ここで開発が終わるわけではりません。今後どのように進化していくのか・・・うーん、楽しみだ。うちの息子が主夫になる頃には（・・・なっちゃうの？）果たしてどんな食洗機が使われていることでしょうかねえ。

日本全国の主夫&主婦の皆さん・・・いえ、暮らしを楽しみたいと思っておられるすべての方！「食器洗いを機械にまかせる」ことは、もう驚沢でも、ムチャでもなんでもありません！こうなったらウチにも食洗機を導入するしかないですよ！遂に我が家も食洗機の時代に突入だあぁぁぁ～！（その前に電子レンジが壊れそうなんですけど、彼にはもう少しがんばってもらおう・・・）

松下電器のみならず、突然、東京からやってきた主夫にいろいろ説明くださって本当にありがたうございました。おおきにやで・・・と、取材を終えて建物に後にする主夫（いや、脚本家）、下園。あ、夜の帳が下りても、研究棟にはまだ明かりが・・・。松下の食洗機の歴史に幕が下りたことはありません。熱いものづくりスピリットに支えられた、食洗機43年間の歴史に乾杯・・・そして乾杯に使ったコップは食洗機で洗おう・・・。

・・・って、げげっ！もうこんな時間かよ！新幹線の最終に間に合わないかも！？えらいこっちゃ！あ、工藤さん！！このコップ、食洗機で洗っておいてくださいっ！！じゃ、またメールしますっ！嫁様、息子よ、待っててくれ～！

## 🍷おわり

TOP

第1話

第2話

第3話

第4話

第5話

おわりに

いかがでしたか？あなたの評価はこちらから！&lt;トップへ&gt;